なてこちゃんの なにワールドツアー

呼び込みの三味線の音から、ジャンジャン横丁と呼ばれるようになったといわれているよ。

8面へ

ルックバック！ なにわ区

浪速区制100周年プレ企画

【第10回】日本橋地域

2025（令和7）年、浪速区は区制100周年を迎えます。その節目にあたり、浪速区の歴史を区内11地域の皆さんと座談会で振り返る連載企画です。第10回では、日本橋の皆さんに当時の思い出やエピソードなどを伺いました。

宿場まちとして栄えた長町

岩上さん 江戸時代の日本橋筋（堺筋）は公儀道（幕府の管理する道）でした。公儀道は長堀橋から始まって南へ日本橋、名呉橋（今の阪神高速1号線のえびす町入口）まで来て、今の恵美須の交差点のところで奈良街道と紀州街道に分かれていました。交差点から西に折れて1筋目の道を北に折れて遡る街道は住吉街道と言いました。東西は住吉街道から今の日本橋公園の東側の道まで、南北は道頓堀の日本橋から今の恵美須の交差点までのエリアを「長町」と言い、旅籠（旅館）がたくさんありました。

区長 今の「オタロード」は住吉街道の一部なのですね。

宇野さん 北浜から日本橋1丁目までを堺筋といい、そこから南は紀州街道になっていました。日本橋1丁目に公儀橋がありましてね。でも島之内は夜間は立入禁止だったので、旅人は島之内から外に出なければいけなかった。それで八軒家浜にも長町にも旅館が多かったんです。分銅河内屋という旅籠には弥次さん喜多さんの十返舎一九（『東海道中膝栗毛』の作者）も泊まったそうです。

江戸時代、紀州藩のお殿さんが参勤交代で大阪に来た時は、日当で人を雇って共揃えをして、千人か二千人の行列を作って市中に入るんですが、そのアルバイトをする人間が長町にはたくさんいたんです。

【参加者】（後列左から）田原 博さん、中山 孝司さん、宇野正也さん
（前列左から）岩上 昭信さん、幡多区長

「眺望閣」大阪市立図書館アーカイブネット

深堀り！ 長町

日本橋は、現在の堺筋にあたる紀州街道沿いに架けられた公儀橋でした。少なくとも鎌倉時代頃までは海辺で「名呉の浜」と呼ばれ、堺筋あたりが海岸線で恵美須町交差点付近が港だったといわれています。陸地化に伴い「名呉町」と称され、細長いまちの形から「長町」と改められました。その後、1792（寛政4）年に長町1～5丁目を「日本橋」と改称、さらに1872（明治5）年に「日本橋」と旧長町6～9丁目はすべて「日本橋筋」※と改称されました。

※1980（昭和55）年に日本橋に改称

（えいわ歴史ものしり展 日本橋往来 えいわのある街 いま・むかし【1】参照）

発想豊かな大阪人～盛んだった番傘作り～

区長 長町はずいぶん市街地化していたようですが、それ以外の地域はどのような様子だったのでしょう。

岩上さん 長町の東も西も、昔は畑でした。

住吉街道と紀州街道の間に、油を搾って大阪のまちに売りに行って生計を立てていた方が多くおられました。油を搾って出た粕（カス）は畑に捨てに行っていたんですが、このあたりは砂地ですので、その砂地と油粕が合わさって良い畑ができたんです。そこで難波葱や金時にんじん、蕪（かぶら）などを作っていました。明治の時代になって難波駅ができたときは、「葱（ねぎ）畑のなかの難波駅」と言われたそうですよ。江戸時代、うちの寺の西側で畑を作っていた人たちの農閑期の手間仕事として番傘作りが盛んでした。番傘は傘張りをして油を塗って作ります。「浪花百景」の中に、油を塗って干してあった傘が突然の風で飛ばされていく様子が描かれています。傘に塗る油は、長町の油屋さんの粕油です。燃やすしかないような油を手に入れて、傘に塗ってそれを乾燥させるんです。そのまとめ役をしていたのが、「御蔵跡」のあたりにあった傘屋さんたちです。

油紙も和紙に油を塗って作って、大阪のまちの中に売りに行きました。江戸時代に、折りたたんで荷物の中に入れておいて雨が降ったら広げて着る、油紙で作られた携帯用の雨ガッパが流行りました。油紙は本来、書状などの大切なものが濡れてしまわないように作られたものですが、水をはじくという特性からカッパを作ったんですね。当時の大阪のまちの人の発想はすごいと思います。

「長町裏遠見難波蔵（浪花百景）」大阪市立図書館アーカイブネット

履物のまち 御蔵跡

区長 先ほど「御蔵跡」のお話が出ました。日本橋の「御蔵跡」は履物のまちとして有名ですが、「御蔵」そのものは江戸時代、今の中央区側にあったそうですね。

宇野さん 「御蔵」のあったあたりを総称して「御蔵跡」と言ったんでしょう。昔、「御蔵」に通じていた高津入堀川が、明治時代に南の方へ延長されました。その影響で、深田橋の近くには製材所が何軒かあって、ゲタの材料を作っていたそうです。「御蔵跡」に履き物屋さんが増えたのは、昭和の時代になって、関 一市長が御堂筋を拡張するために、南御堂付近にたくさんあったゲタ屋さんを立ち退かせたからで、「御蔵跡」のところに集団で移転してきたと聞いています。

岩上さん 鼻緒屋さんとか、下駄の形に木を切る人とか、草履の台を作る人とか。そういう人たちが「御蔵跡」に住んでいましたからね。

眺望閣と五階百貨店

区長 明治時代には日本橋地域に「有宝地」という遊園地ができたと聞きました。そこの目玉が「眺望閣」という展望台で、それが、今の「五階百貨店」と関係があるそうですね。

岩上さん 当時の「眺望閣」は5階建てで、それが「五階百貨店」の呼び名の始まりです。

区長 「眺望閣」が5階建てだったからそう呼ぶようになったんですね。「眺望閣」は今の「五階百貨店」の場所にあったんですか。

宇野さん 「眺望閣」はもう少し北にあったようですよ。

区長 「五階百貨店」は戦前からあったそうですが、戦後、いち早く商売を再開し、日本橋の復興を支えたそうですね。

中山さん 「五階百貨店」は日本橋4丁目交差点から150mほど北側、ちょうど堺筋から西へ、1つ道を隔てて、さらにもう1つ西側のところまで、バラック建てでトタン屋根の建物が南北の道路を挟んで2棟建っていました。建物の中は1メートル20センチ位の通路が東西に2列あって、店舗は幅が2メートル四方ほどでした。呉服屋、金物屋、電気屋さんやいろいろな店が集まってにぎやかでした。どの店も扉も何もなくて開けっ放しでした。皆で近くの倉庫を借りて、朝は倉庫から品物を出して、丁稚（でっち）車で店に運んで下ろす。夕方にまた品物を積んで倉庫に入れる。だから夕方になったら店の中はからっぽでした。

岩上さん 戦前、日本橋では古本や古着、あるいは果物や野菜が売られていました。戦後、「ジャンク」といって進駐軍の払い下げの通信機を分解した、真空管などを売り出しました。それが電気屋街の始まりです。そういったものを売っていた人たちが、今でいう白物家電を作って売るようになって、小売のお店がずらっと店を構えたというのが日本橋の電気屋街です。

田原さん 私は1948（昭和23）年の生まれですが、父は家電ではなく重電関係のモーターなどを扱っていました。使えなくなったモーターを、コイルを巻き替えて売っていました。よく売れたそうです。山崎貴監督の映画「ALWAYS 三丁目の夕日」の時代描写は、私が子どもの頃の日本橋を思い出させます。

深堀り！ 五階百貨店

1888（明治21）年、大阪で最初の高層建築である5階建ての展望台「眺望閣」ができ、「ミナミの5階」と言われる大阪名所となりました。周辺にできた古着や古道具などを売る露店は当時流行語であった「百貨店」と組み合わせて「五階百貨店」と称され、1904（明治37）年頃に眺望閣が取り壊された後も残りました。現在「大阪名物 五階」と看板のある建物は1946（昭和21）年頃に建てられたもので、今もこのエリアを表す名称として残っています。

（えいわ歴史ものしり展 日本橋往来 えいわのある街 いま・むかし【1】参照）

地域が誇る文化財 大乗坊と髙島屋東別館

宇野さん 以前はこんなに食べ物屋さんはありませんでしたし、コンビニも増えました。今はインバウンドの需要があるので成り立っていますが、それが収まったら果たしてどうなるのか。東京の中心街のように店がなくなって、楽しみでこのまちに来る人がいなくなってしまうのではないか。

そんな中で、毘沙門さん（大乗坊）と髙島屋の東別館があることはありがたいと思っています。それを目的に人が来てくれますからね。どちらも国の重要文化財に指定されています。

区長 大乗坊にある毘沙門天王立像は日本四大毘沙門天王像の1つで、非常に古い歴史があると伺っています。もとは今の天王寺区役所のあたりにあったそうですね。

岩上さん 織田信長の焼き討ちに遭って流浪していたのですが、江戸時代の初めに灰屋さんの別宅を譲り受けて、そこにお寺を建てて再興しました。主になる毘沙門天の首は、奈良時代の毘沙門天のものと伝わっています。仏頭だけを持って流浪してこの場所に来て、それから下の体を作って、秘仏として祀っています。

木造毘沙門天王立像
写真提供：大乗坊

中山さん 堺筋は今の御堂筋ができる前は大阪のメインストリートでした。髙島屋東別館は堺筋にありますが、もとは百貨店の「松坂屋」でした。今の日本橋小中一貫校の南東角に昔、住吉街道の「西の六道の辻」がありました。今はどこも4つ辻ですが、昔はそこに6つの辻があったんです。悪いことをした人を追いかけて来ても、六道の辻まで来たらどこへ行ったかわからず、捜しようがなかったようです。今もその案内石が残っています。

これからの地域へ寄せる思い

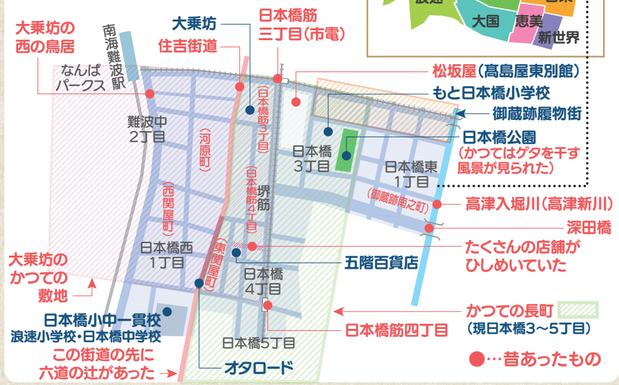
岩上さん 最近の日本橋の変貌はものすごいです。寺の周りにもホテルが増えて、そういうものに取り囲まれているように感じます。まちが変わってくる中で、1番さみしいのは子どもが少なくなったことです。われわれのまちを残すうえで、本当の日本橋を知ってる人が残ってくれるかどうかが1番の心配です。たくさんの外国人観光客が毎日、うちの寺にもやってきます。彼らはスタンプラリーのような感覚で来るのですが、「本尊さんをお参りしてください」とできるだけ案内するようにしています。日本の古くからあるものを大切に残していく努力をしていかなければならないと思っています。

田原さん 日本橋は住んでいる人よりも、働きに来る人や遊びに来る人たちの方が多いので、そういう意味で将来が心配になることはありますが、戦災で焼け野原になって何もなかったところから、あのように電気屋街になり、それが傾いても今やポップカルチャーのまちになっています。日本橋という地域は本当に不思議な地域で、私はまちは姿は変わろうとも、これからも発展していくだろうと楽観的にみています。もちろん治安の問題は出てきます。たくさんのお客さんに、外国の方も含め安心してこのまちに来てもらいたいので、今、住んでいる地域の皆さま、テナントの方々と力をあわせて、そのためのより良い環境を作っていかなければならないと思っています。

座談会全文はこちら➡

日本橋地域

難波中2丁目1～7番、日本橋3丁目、
日本橋4丁目7～17番、日本橋5丁目9・10・17・18番、
日本橋西1丁目1～8番、日本橋東1丁目



問合 区 総務課（企画調整） 6647-9683 6633-8270

日本橋地域 年表

1869（明治 2年）	大坂三郷廃止。「長町」と御蔵跡一円は南大組の一部となる
1872（明治 5年）	「長町」が「日本橋筋」に改称される。
1888（明治21年）	日本橋四丁目の現在の五階百貨店の西側に「眺望閣」開業
1889（明治22年）	大阪市制発足、日本橋地域の一部が大阪市南区の一部となる
1897（明治30年）	第一次市域拡張、日本橋地域全域が大阪市南区となる
1898（明治31年）	高津入堀川・鯲（いたち）川連絡工事完成
1908（明治41年）	市電南北線（梅田―恵美須町）開通
1912（明治45年）	市電堺筋線（大江橋―北浜二丁目―日本橋筋三丁目）開通
1914（大正 3年）	大乗坊の毘沙門天王立像が国宝に指定（現在、重要文化財）
1923（大正12年）	日本橋筋三丁目に松坂屋大阪店が開業
1925（大正14年）	浪速区創設（日本橋地域は南区あるいは浪速区に帰属）
1937（昭和12年）	今の髙島屋東別館（旧松坂屋大阪店）が完成
1943（昭和18年）	現浪速区となる（日本橋地域全域が浪速区になる）
1945（昭和20年）	爆撃により区域の約93%が消失、終戦
1957（昭和32年）	高津入堀川埋立開始（～昭和39年に完了）
1966（昭和41年）	日本橋地域を走る市電廃止、松坂屋が天満橋に移転
1969（昭和44年）	地下鉄堺筋線（天神橋筋六丁目―動物園前）開通
1978（昭和53年）	電気街の愛称「でんでんタウン」が一般公募で選ばれる
2005（平成17年）	第1回 日本橋ストリートフェスタ開催
2021（令和 3年）	髙島屋東別館が国の重要文化財に指定

浪速区制100周年記念事業

～浪速区の生い立ちを振り返ります～ vol.4

大坂落城後、徳川氏が天下を握り、大坂城主の松平忠明は、堀川の開削や三の丸を新たな市街地として伏見町人を移住させました。また、接近する村落の寺院を3か所に集め、大坂七墓の建設など市街整理を行いました。

その後、大坂は幕府直轄地として諸役人がおかれ、市中は北組・南組・天満組の「大坂三郷」を形成しました。村内では庄屋・年寄の三役制が設置され、農村の政治にも力が注がれました。

この頃の当区一帯は、住吉街道の入口としてにぎわい、農村として発展しました。難波・木津・今宮・西高津・勝間・中在家・今在家・吉右衛門肝煎地（＝大坂の陣後に武家地・町人地として再活用されなかった場所で、髙津屋吉右衛門が仲介・世話をした地）は、畑場8か村として著名な畑地で、難波村の葱・藍、木津村のかんぴょう・しろうりなどが名産として知られていました。

これらの産物は、張りめぐらされた水路で天満青物市場に運ばれていました。あまりにも遠いため、道頓堀や湊町あたりでの立売りを正式な市場として許されるよう嘆願しましたが、そのつど天満市場などから苦情が出され、95年間に及ぶ運動が続けられました。文化6年、13品（大根・菜類・茄子・葱・人参・冬瓜・白瓜・南瓜・西瓜・若牛蒡・分葱・芋類・蕪）に限り、立売りが認められ、これが木津市場の起こりといわれています。

1887（明治20）年頃の難波中2丁目あたり南海電鉄と難波御蔵（米蔵）がある。あたりは一面ねぎ畑で松林などが散在していた。奥に見えるのはパノラマ館（360度を見渡せる絵画とジオラマを組み合わせた劇場型施設）である。

問合 区 総務課（企画調整） 6647-9683 6633-8270

なにわマニア話 vol.10 日本橋地域

■太平洋戦争を生き抜いた松坂屋大阪店（現・髙島屋東別館）

昭和3年（1928）竣工の松坂屋大阪店（現・髙島屋東別館）は太平洋戦争中に政府の斡旋で軍事拠点として利用された歴史があります。『浪速区史』によると地下1階・2階は住友金属の航空機突貫製作工場となり、5階・6階は日立造船の軍需産業生産部門営業所、そして屋上には高射第3師団の高射砲が据え付けられました。また戦没者の妻たちが作った製品の即売会『愛國製品バザー』を行って遺族を支援したという記録などもあります（『銃後の大阪』より）。さらに昭和20年（1945）3月の大阪大空襲では逃げ惑う近隣の避難者を地下に収容して1000名近い人命を救助したといいます。爆撃で建物も発火しましたが、当直者の尽力によって見事、消火に成功し、歴史的建造物を守りぬきました。浪速区制100年の歴史を見つめ続けてきた、浪速区きっての名建築といえるでしょう。

松坂屋で開催された『愛國製品バザー』。3600円（現在の価値で約1800万円ほど）の売上をあげたといいます。
出典：『銃後の大阪』より

案内人
むつ さとし
陸奥 賢さん
観光家／コモンズ・デザイナー／社会実験者

この記事は、地域の語り部の方々の発言をもとに作成しております。
歴史考証はしておりませんので、予めご了承ください。